

**編集後記：**編集委員長の藤谷さんが、本務の関係から東京を離れることとなり、任期半ばで委員長を辞任されました。ご多忙のなかで長い間、陣頭指揮で誌面の充実に尽力してこられたことに改めて心から感謝しております。これからも編集委員としての活動は続けてくださることとなり、たいへん心強く思います。

諸般の状況を勘案した結果、私がリリーフとして委員長をお引き受けいたしました。約40年前に編集委員を、また30年前には委員長を経験いたしました。当時の誌面とは比較にならぬほどの充実した内容になっていることは、その後の歴代の編集委員会のご尽力の成果と認識しております。現在は委員の一人として3年近く前任者の精力的な仕事ぶりに接触してきたの

で、果たしてこの老骨が円滑に編集事務を進められるか一抹の不安がありますが、優秀な委員各位と大井戸書記のバックアップで何とか学会機関誌の体面を保ってゆきたいと願っております。

「天気」の内容については、折りに触れて会員から貴重なご意見が寄せられ、編集の参考にさせていただいてきましたが、最近の常任理事会や評議員会においても機関誌の在り方について活発に議論されております。これらの議論を踏まえ、気象予報士の誕生に象徴される気象界の動向も視野にいれての一層の改善に努力する所存です。会員各位のご支援とご協力をお願いする次第です。

(関口 理郎)